

議員定数を考える緊急シンポジウム 報 告

と き 2019（令和元）年 11 月 5 日 午後 7 時～9 時 20 分

と ころ 東京都小金井市・前原暫定集会施設

参 加 村井 正信・高瀬 洋

小金井市の簡略説明

小金井市は東京駅から中央線立川方面へ電車で約40分の所にあり、面積11.30平方kmで約12万人が住んでおり、西脇市と比較すると1/12の面積地に3倍の人が住んでいることになる。JRの駅は東小金井駅、武蔵小金井駅があり、東京学芸大学、国際キリスト大学、東京農工大学、文化学園大学、東京経済大学などが散在する学園都市でもある。令和元年度一般会計は438億円である。

シンポジウム開催に至る経過

小金井市議会では、今年の6月定例会で自民党、公明党会派が中心になり議員定数削減(24人→22人)条例案が議員提案された。それに対し議員定数はどのように考えるべきかを調査しようと考えた議員13人が研究会を立ち上げ、その研究結果報告と山梨学院大学江藤俊昭教授の「議員定数を考える視点と市議会の課題」の講演を中心とした「議員定数を考える緊急シンポジウム」に参加した。

シンポジウムの内容

第1話では、議会活動に関する調査集計(多摩26市)

人口に関すること

- ・10年間の人口増加率 5位/26市中
- ・選挙の状況 直近の市議選の投票率 25位/26市中
直近の市議選の競争率(候補者が多い) 2位/26市中

議会活動に関する調査集計

- ・本会議開催日数 2位
- ・本会議開催時間数 4位
- ・委員会開催日数 4位
- ・委員会開催時間数 2位
- ・陳情書・請願書件数 1位
- ・議員提案数 条例1位
意見書1位
決議2位

他市議会事例

- ・京丹後市議会、会津若松市議会、国立市議会

共通する総括的意見として

財政削減として考えるのではなく、いかにして多様な民意を反映できるか、政策提案ができるか、適正な市政運営をチェックできるかを基準に考えるべき・・・との視点

研究報告

・議員活動調査 2019年8月・9月（7人の平均）

月あたりの労働時間

8月（閉会中） 218.9時間

9月（開会中） 295.8時間

1日あたりの労働時間

8月（閉会中） 10.4時間（平日21日）

9月（開会中） 15.6時間（平日19日）

・議員提出議案について

・提出議案の趣旨

類似団体が22名、財源を市民サービスに

・研究会に所属する議員の考え

定数の論拠を明確にする、市民の意見を聞く

第2話 講演会

「議員定数を考える視点と市議会の課題」

山梨学院大学 江藤俊昭教授

講演内容の趣旨

- ・住民自治の根幹は議会であり、その議会を作動させるために条件を作ることが重要（例えば議員の成り手不足の解消等）
- ・行政改革の論理は効率性であり、議会改革の論理は地域民主主義であり、政治の問題である。議会が追認機関であれば議員は多くても少なくてもよい。
- ・議会改革の本旨
 - ・二元代表制の一方である議会は、もう一方である市長と政策競争をするために、議会としての意思を示すための討議が重要である。
 - ・市長は条例や予算等を提案するが議決をするのは議会である。これは市民の生活を左右する驚くべき権限であることを自覚する。このことを議会改革の起点とすべき。
- ・議員定数について
 - ・多様性の重視と地域民主主義を充実させる視点で考える。
 - ・条件を考えるのは現在の議員のためではない、参加のハードルを低

- くする。
- ・討議できる人数、委員会の数、住民と考える
 - ・主権者教育の必要性
 - ・中高校生、大学生がまちづくりにかかわることで、政治や行政への参加による実感ある市民教育を進める。
 - ・予算を提言する山形県遊佐町「少年議会」(在住・通学の高校生)
 - ・若者政策策定や実施をする新城市の若者議会
 - ・大学生と議員が意見交換する山梨県昭和町、越谷市の「学生議会」
 - ・可児市議会では、高校生との地域課題懇談会を行い、高校生が地域学習を踏まえて政策提言を行っている。
 - ・「住民自治の根幹」としての議会を認識し、それを作動させる。
 - ・民主主義の学校としての地方自治の必要性
 - ・地方議会改革は、住民福祉の向上に役立つとともに地域民主主義を充実させている。

所 感

村井 正信

今回のシンポジウムへの参加は、西脇市議会が取り組んでいる議員定数問題を考えるうえで、非常に有意義なものであった。

そもそも議員定数は、従来は自治体の規模で決まっていたが、その後法定上限数に改正され、そして現在は各自治体が自らの責任で決めることになっている。今回西脇市議会が自ら議員定数問題に取り組むことは、住民自治と深くかかわることであり、単に近隣市との横並びや、少なければ良い、単に多ければ良いといったこととは次元の違うことであると再認識した。

従来は議会改革とは、定数を減らすこと、議員報酬を減らすこと、政務活動費を減らすことのように言われた時期があったとのことだが、本来の議会改革は住民自治をどのように創りだすか、というところからの出発であり、議員定数を考える場合も、住民自治を充実させるための条件として議論しなければならないことがよく認識できた。そのためには、将来多くの人々が地域の課題を解決するために議員に立候補し、議員活動をしやすい条件を含めて考えることが必要であることも認識できた。

まず、今回のシンポジウムは小金井市議会（定数 24）の中で、議員定数削減に慎重な立場の 13 名の超党派の議員による自主的な企画であることをことわっておきたい。参加者は 31 名であったが、その約半数は我々を含めた議員であった。市民の参加は少なかったが、私にとっては有意義なものであった。

今、西脇市議会でも市内 8 カ所での「議員定数に関する意見交換会」を開催しているところであるが、「定数を減らすべき」というような意見は少数で、「議会のことを良く分かっていない市民が何人かいいというようなことは言えない」という意見が多い。この意見は言い換えれば、市民が信託した議員なのだから、信託された議員で決める案件という判断をしているということだ。



小金井市シンポジウムの様子

市議会に議員から持ち込まれる課題の中には、「市民の代弁型」「市民からの信託型」の二つあると思うが、今回の議員定数の課題は後者にウエイトを置き考える課題であると思う。まだ、意見交換会は多く残っているが、市民の意見を踏まえつつ最終的には、市民の幸せにつながる議会へと発展させるためには、何人の議員が必要なのかを議論していきたい。（11 月 12 日現在）